

令和4年度 横浜市社会教育コーナー 管理運営報告書

事業対象施設：横浜市社会教育コーナー 横浜市磯子区磯子3-6-1-1

事業期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

管理運営団体：特定非営利活動法人 夢・コミュニティ・ネットワーク

1 生涯学習・地域活動団体へ安全・安心な場の提供

1) 開館日数： 345 日

休館日（原則毎月第1月曜日&年末年始 全20日）

2) 利用率・利用人数・利用コマ数（別紙：利用状況年間報告書）

3) 登録団体数：365団体（令和5年3月31日現在）

分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数
テニス	114	ダンス	41	合唱	37	市民活動	17	絵画	16
太極拳	15	楽器演奏	14	自治会・ 管理組合	14	読書・朗読	12	体操	9
外国語	9	書道	9	青少年育成	7	多文化共生	7	卓球	6
俳句・短歌	6	健康福祉	5	生け花・フラワ ーアレンジメント	4	手工芸	4	子育て支援	3
ヨガ	2	パソコン	1	囲碁・将棋	1	ゲーム	1	武道	1
歴史文学	1	詩吟	1	演劇	1	その他	7		

利用率、利用者数・団体の変化

- ・年度はじめはコロナ禍もあり各部屋の利用率は高くはなく、テニスコートの利用はあったが研修室をはじめ屋内での活動は自粛している団体が多いようだった。

- ・その後月を追って抽選会へ参加する団体も増え、それまで活動を休止していたトレーニングルームを使用するダンスや太極拳などの団体や活動が活発になってきた。
- ・演奏会などの発表の機会も徐々に再開されはじめ、アートルームを利用する合唱や楽器演奏の団体が継続した活動になってきた。

2 施設の防災・防犯対策

①緊急時の対応

- ・施設内で火災が起きた時は初期消火、けが人への対応、消防署への連絡、市教委への連絡等を行うなどの対応マニュアルを作成し、研修を行い、スタッフ間で共有した。

②施設内のどこに消火器があるか、避難をする際の避難経路や非常灯の場所を各部屋に掲示している。

③災害対策

- ・「磯子区洪水ハザードマップ」「土砂災害ハザードマップ」によると、社会教育コーナーの北西 100m に土砂災害警戒区域がある、また「内水ハザードマップ」では 1 時間 153mm の雨で内水氾濫が起った際、2 cm から 20 cm の道路冠水相当となることがわかっている。浸水時や地震の際の避難場所は磯子区役所となる。また、地域防災拠点は森東小であることをスタッフ全員で地図を用いて確認している。

3 生涯学習・社会教育に関する相談・コーディネート・情報提供

全相談件数(61 件)

4 月(5) , 5 月(8), 6 月(6), 7 月(6), 8 月(4), 9 月(4), 10 月(4), 11 月(3), 12 月(5),
1 月(6), 2 月(3), 3 月(7)

- ・窓口では来訪する市民に対し、これから活動を始めたい人へ団体やサークルの紹介、イベント・講座等の情報提供を行った。
- ・コロナ禍も収まりつつあり、これから何かやってみようという個人の相談が増えてきている。
- ・施設内に活動紹介や発表のチラシやポスターを掲示し、登録団体の活動支援および来館者への情報提供を行った。
- ・生涯学習文化財課主催「社会教育研究会」にファシリテーターとして参加した。また、同課の職員研修のひとつである区の課題に対応する出前研修に参画し、3 区（青葉、中、神奈川区）へ出向いた。研修では職員やスタッフが課題と捉えている内容について、ワークなどを行い職員同士で解決の糸口が見つけられる機会をつくった。

4 社会教育コーナーの評価・検証

① 利用者会議（別紙「令和4年度横浜市社会教育コーナー利用者会議報告書」参照）

- ・現在利用している登録団体の代表者による交流会を実施した。（令和5年2月17日）

今年度から社会教育コーナーの運営団体が変わり、利用団体が利用の際に気づいたこと、改善してほしいことについて意見交換を行い、今後の管理・運営に活かしていくことを目的に実施している。

コロナ禍で普段は接することのない参加団体同士の交流となった。

② 事業アンケート ・主に講座実施の最後に受講者に向けてアンケートを取り集計している。

今後、どのような講座があると良いかなど、事業に活かしていく事を目的に実施。また、講座開催を何で知ったか、住んでいる居住区等もうかがい、今後の広報やニーズ把握の情報源とする。

③ 窓口にご意見箱の設置。その他、利用の点検確認票にも職員への連絡事項の記入欄を設けている。

窓口では相手が話しやすい雰囲気です丁寧な対応を職員全員が心掛け、相手に伝わる工夫をしている。

5 業務に関する研修

① 施設の管理運営に関する研修

- ・公共建築物の保全に関する研修（施設管理者を対象とする出前研修）：1名参加
- ・防災実習訓練：全員参加
- ・救命救急訓練：全員参加

② 個人情報保護に関する研修

実施日：4月

③ 生涯学習、社会教育等に関する研修

- ・横浜市教育委員会 市民活動・地域活動 新任者研修（4月27日）
- ・公民館館長・職員等研修会（神奈川県公民館連絡協議会）（5月20日）
- ・県生涯学習指導者研修「社会教育担当者コース」（県教委）（5月24日、7月13日）
- ・県生涯学習指導者研修「公民館等担当者コース」（県教委）（6月24日、10月12日）

- ・ 市民局主催ネットワーク会議（6月29日）
- ・ 地域力推進担当者研修（令和5年3月13日）

出前研修の実施

- ・ 青葉区出前研修（8月25日）
- ・ 中区出前講座（11月16日）
- ・ 神奈川区出前（12月19日）

その他 関わった研修

- ・ 横浜市生涯学習研修3（12月21日）
- ・ 横浜市社会教育研究会（令和5年1月25日）

杉並区社会教育委員会議

- ・ 視察と懇親会（11月24日）

社会教育実習生の受け入れ

- ・ 9月13日、26日、10月4日、17日、25日、31日

◆ 保守管理維持管理報告書

業務	頻度		備考	実施日・結果等
設備建物維持管理 (建築・電気・消防設備)	2回/月	管理者点検	職員による点検	別紙「管理者点検」のとおり
	3回/年	定期点検	業者による点検 消防法上必要書類一式 点検及び館内点検	別紙「設備点検報告書」の とおり
空調設備の清掃	6回/年	定期点検	業者によるフィルター・掃除・点検	別紙「定期清掃作業報告書」の とおり
第一種特定製品点 検(空調設備)	3回/年	定期点検	室外機、室内機	別紙「簡易点検チェックシート」 のとおり
自動ドア点検	2回/年	定期点検	自動ドア専門メンテナンス	令和4年5月2日:正面外扉部 品はずれ有り→修理へ 令和4年11月7日:異常なし
自動火災報知設備 点検票	2回/年	定期点検	専門メンテナンス	令和4年5月27日、11月7日 異常なし
防火対象物点検	1回/年	点検	消防法上必要書類一式点 検及び館内点検	令和4年5月27日 異常なし
清掃業務	平日	日常清掃	シルバー人材職員による各 部屋とトイレ・回廊等の清掃	
	1回/ 2か月	定期清掃	業者による清掃:床ワックス、 網戸、ガラス、換気扇等中心	令和4年4月4日、6月6日、 9月15日、10月3日、12月5 日、令和5年2月6日 別紙「定期清掃作業報告書」の とおり
	日曜・ 祝日	日常清掃	スタッフによる各部屋と トイレ・回廊等の清掃	
小破修繕	随時			下欄内訳のとおり

小 破 修 繕 内 訳			
対応月	内 容	対応月	内 容
6 月 6 日	自動ドア修理（フレドメ交換）	11 月 7 日	アートルーム床修理
9 月 7 日	男子トイレ便座交換	2 月 22 日	ブラインドコード交換
9 月 14 日	ブラインドコード交換	3 月 31 日	自転車修理
11 月 7 日	通用口扉補修工事		

◆ 自主事業報告書

事業の目標1 社会参加
主体的な参加のきっかけづくり

①社会教育の場の運営

利用者が主体的に活動にかかわれるよう、毎回の挨拶や声かけなど職員が利用者とのコミュニケーションを積極的に図った。また、施設の適切な管理として利用者の入れ替え時には利用時間の 10 分前には掃除を終えていただき、コロナ対策としての換気や消毒を行い、次の利用者の入室を促し、スポーツ広場では雨の日の後のコート of 整備、落ち葉の掃除をし、利用者に気持ちよく使っていただくことを心掛けた。また、スタッフは窓口業務をより確実に正確に行えるよう努力し、利用者に使いやすい施設となるよう窓口や掃除の際に利用者の声を伺い、常に工夫と提案を出し合いながら運営を行っている。

②ホームページの管理

- ・利用者が見やすく、わかりやすいページを意識し、新たに立ち上げた。
- ・施設の空室状況を毎日更新することで、利用者が活動予定を立てやすいようにした。
- ・必要時応じて更新した。

③メールマガジンの発行

- ・毎月 1 回、希望者にメールマガジンを送付し、施設からのお知らせや実施事業を発信した。

④ブログ・ツイッターの配信【新規】

- ・ホームページ内にブログ「学びのとびら」を置き、社会教育に関わる情報を提供した。
- ・ツイッターでは身近な情報や過ぎに伝えたい事柄を発信し、タイムリーな情報提供を心がけた。

⑤掲示板や館内掲示の充実

- ・掲示板に情報内容の「タイトル」を貼り、カテゴリー分けをすることで、情報を取りやすくした。
- ・古い情報を更新し、見やすい掲示を心がけた。

⑥相談・コーディネート

- ・市民が生涯学習の相談をしやすいよう、明るく丁寧な窓口対応を心がけた。
- ・活動団体につなぐ際には、個人情報保護に配慮するとともに、スムーズに情報提供が行えるように職員間の共有を確実に行った。

⑦読書活動による社会参加の場づくりと交流

目的：読書活動に関わる活動団体の活躍の場づくりと市民の読書活動の推進を図る

日程：7月～2月（全8回、7月30日、9月17日、10月8日・29日、11月19日、12月17日、1月21日、2月18日）

対象：主に未就学児とその親

参加人数：延べ188人

内容：9団体をコーディネートして「おはなしの国」を開催した。活動団体にアンケートをとり、実施の希望や内容などを調整し、全8回を実施。運営資金や団体への謝金等は助成金（区ふれあい助成金）を活用した

課題：団体同士でネットワークをつくり当日の運営についても協力ができるようになると互いの実践も見ることができ、スキルアップにもつながるのではないか

⑧親子の広場

目的：乳幼児をもつ親同士がともに子育てや社会的課題について学ぶと共につながり、仲間づくりや社会参加の一步を支援する場として開催

日程：全6回（5月30日、6月27日、9月26日、11月28日、1月30日、3月27日）

対象：未就学児とその親

参加人数：108人

内容：季節行事の工作やふれあい遊びを通じて、関わりあう楽しさを体感した

課題：毎回の集客

⑨乳幼児親子の交流の場づくり

目的：乳幼児をもつ親同士がともにつながり、仲間づくりや社会参加の一步を支援する場として開催

日程：全3（11月11日、12月9日、2月17日）

対象：未就学児とその親

参加人数：56人

内容：親子がリトミックなどを通じて、一緒に遊びながら楽しく交流した

課題：毎回の集客

⑩若者の社会参加【新規】若者企画体験プロジェクト

・社会教育実習生として当施設に関わった大学生が企画し、若者対象の事業実施を計画した。

計画案を検討する中で、実施を令和5年度の夏以降にすることとした。

事業の目標2 つながりづくり

多様な主体との連携・協働の推進

①学校・地域コーディネーターのネットワークづくり（交流会）

目的：学校・地域コーディネーターの活動現場での課題の共有・情報交換を通し課題解決等を図る

日程：1月21日

対象：学校・地域コーディネーター（磯子区内）

参加人数：12人

内容：学校で地域のボランティアが放課後実施している取組事例の紹介を行い、学校・地域コーディネーターの活動に関して質問や課題、悩みなどを相互に聞きあい解決のヒントとする

成果：学校・地域コーディネーターは学校により実施内容が異なっているため、学校に1人しかおら

ずこれまで相談の機会がなかった人など、他のコーディネーターとの情報交換や相談ができるようになったことが大きい成果であった。また磯子区学校連携担当者に連絡し、学校への連絡をスムーズになるように連携をとれる体制もつくれた

課題：初回のため磯子区内のコーディネーターを集めることから始めたが、市域に交流会を広げたいけるようにしたい

②図書館と市民活動・生涯学習支援センターの連携支援

目的：図書館との連携強化を図る

日程：1月31日

対象：読み聞かせボランティア（磯子区内の小学校）

参加人数：8人

内容：ボランティア同士の情報交換、図書館および社会教育コーナーからの情報提供

課題：コーナーに大型絵本があることを知られていない。交流会終了後、参加者が当施設に来訪

③紙芝居等を用いた交流会（読書プロジェクト）

目的：読書活動に関わる人や活動をはじめたい人へのスキルアップの機会を通して、読書活動推進のネットワークをひろげ、お互いに学びあう機会の提供を図る

日程：年3回（7月15日、11月18日、2月24日）

対象：絵本が好きな人、おはなしに関心のある人

参加人数 計86人（7月：18人、11月31人、2月：37人）

内容：朗読や紙芝居、郷土のおはなし、絵本の読み聞かせ

課題：周知に苦勞しているが、学校ポストにチラシを配架できたことで多くの参加があった

④磯子区NPO連絡会への参画

区内NPOの横つなぎの会。毎月1回の定例会において近況報告や情報交換を行っている

6月にいそご区民活動支援センターとの共催で「地域活動フォーラム」を区役所で実施。体験講座をはじめ交流イベントに取り組んだ。今後も連携を深めていきたい

⑤磯子区館長連携会への参画

各月で区内地域施設の館長が集う情報交換の機会。連携して実施した「いそっぴゴールデンウィーク」では、当施設もスタンプラリーを実施し、当施設では130人が景品を交換した

⑥市内・区内の社会教育関係機関との連携

当法人が青葉区、磯子区、南区、保土ヶ谷区からの依頼を受け、担い手育成や職員研修の事業を実施している関係から、その区の生涯学習担当者との連携を深めた。また、当施設に南区支援センター職員が来訪し、当法人が実施している担い手育成講座や市民への対応等の質問に応じた

事業の目標3 人材育成

地域の学びと活動を活性化させる人材の育成

①社会教育・生涯学習関係職員への対応・サポート

・来館や電話、研修現場などにおいて、担い手育成の講座の内容への相談やイベント情報の告知PRの依頼を受ける。告知PRの依頼に関しては館内の掲示板に貼るほか、当法人が関わる場で紹介した

②よこはま社会教育士ネットワーク【新規】

目的：市内の社会教育士および社会教育士をめざす人たちの情報交換と交流を図る

日程：毎月1回開催（全9回開催）

対象：社会教育士および社会教育士をめざす人

参加人数 延べ60人

内容：地域の事例や生涯学習の取組の紹介、アイスブレイクの持ち寄り体験など

課題：開催案内の周知・広報、今後社会教育士関連講座の受講者の参加へつなげていく

④ 社会教育士を目指す人の育成（全4回講座）

目的：社会教育士を目指す人のための基礎講座を開催し、社会教育士の称号取得のための情報取得や士に求められる力量について知る機会とした

日程：全4回（2月14日、21日、28日、3月7日）

対象：社会教育士または社会教育士をめざす人

参加人数：延べ 81 人

内容：プログラムの企画立案を通して、社会課題の捉え方、ファシリテーションスキル、合意形成について等、グループワークを中心に実践的に学んだ

成果：講座の参加者が「よこはま社会教育士ネットワーク交流会」に参加し、今後の称号取得に向けた情報収集をはじめた

新たな地域課題への取組

①困難を抱えた子どもたちへの学習支援

目的：さまざまな理由で学習に困難を感じている小中学生の学習面をサポートすることで、より生き生きとした生活が送れるよう支援する

日程：毎週木曜日

対象：学習に困難を抱える小中学生

参加人数 年間 249 名

内容：学習や社会生活などで不安を抱える子どもたちの学びの場

課題：子どもだけで通ってくるため、保護者が一堂に会する機会がなく会としての情報共有が難しい

②発達が気になりな子どもをもつ保護者のピアカウンセリング【新規】

目的：発達が気になりな子どもをもつ保護者同士のピアカウンセリングの実施し、保護者の仲間づくりの場を提供する

日程：毎月 1 回（全 11 回）

対象：発達が気になりな子どもをもつ保護者

参加人数 延べ 59 人

内容：個別級・通級・放課後ディサービス等、他では得られにくい情報について先輩ママから聞くことで、少し先の将来について見通しが立ち、安心することができる場となった

課題：周知と同時に、安心して自分の悩みを話し、共感しあえる場の確保

③多文化共生社会への意識づくり【新規】

目的：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化や考え方の違いを認め合い、地域社会の構成員として共に生きていくための学びの機会を提供することで多文化共生の意識の醸成を図る

日程：講座 9月～10月（全3回）

対象：多文化共生に関心をもつ市民

参加人数 延べ65人

内容：各回「多文化共生を考える」「外国にルーツをもつ子どもたちの現状」「共に学び、共につくる社会へ」をタイトルに、実践者の話しを聞き、現状を知ること、子どもたちの多様性をいかにするために、地域の大人は何をしたらよいかを考えた

成果：外国につながる子どもたちの現状を知ること、地域としてできることがある。参加者ひとりひとりが、多文化共生社会をめざして「私が明日からやろうと思うこと」を宣言した。多くの人に現状を知ってもらうことが重要であることを再認識した

広報・周知

- ・広報横浜いそご区版および磯子区民活動支援センターの情報誌「いそつな」に各種開催の事業情報を掲載した。また、教育委員会生涯学習支援課を經由し市内関係各所にチラシ配架を依頼。
- ・地域情報紙「タウンニュース」講座情報や名刺広告を掲載するほか、磯子区役所や図書館、地域子育て施設等にチラシを配架。「まちの掲示板」に事業チラシを貼るなど地道に行った。
- ・当施設のリーフレットの発行時期が遅くなったため、次年度に大いに活用し、PRしていきたい。

その他の取組み

①利用者会議

目的：登録団体による利用者会議を実施し、意見交換の内容を管理運営に生かすことで、市民による市民のための施設を目指す

日程：2月17日

対象：登録団体の代表

参加人数 団体代表 6人、当施設3名

内容：当施設からは事業内容や運営について伝え、利用者からは日頃の施設利用に対する意見交換を行い、より利用しやすい施設になるよう話し合った。すぐに動けることはスピーディに改善に向かった。各所に要望が出たが、予算や優先順位などのため、要望に沿えない点もある

②市民活動・生涯学習支援センターとの関係づくり

出前講座や社会教育研究会などを通して各区の市民活動・生涯学習支援センター職員と顔の見える関係ができた。引き続き、コミュニケーションを深めることで、当施設へのニーズを把握し、双方の事業・施設運営に生かしていく

③事業アンケート

事業開催時に毎回アンケートを実施した。感想のほか、参加者理由や情報元などを聞くことで、次の事業の参考とした

職員研修

- ・毎月の休館日を職員研修に宛て、そこで生涯学習・社会教育について、個人情報保護について、ADE研修など、毎回テーマを決めて研修を実施し、利用者のニーズに応えられるよう取り組んだ。
- ・横浜市や神奈川県からの案内のあった研修のほか、外部の研修も積極的に受講し、専門的な知識やスキルアップの機会とした。

以上